

1. 製品及び会社情報

製 品 名 : BD 発泡ウレタン 750ml
推 奨 用 途 : 断熱材・建材
使 用 制 限 : 推奨用途以外には使用しないこと
販 売 元 : ボンド商事株式会社
住 所 : 東京都千代田区神田錦町 3-11
電 話 番 号 : 03-3293-7102
F A X 番 号 : 03-3293-4140

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

JIS Z7252 (2019) に基づき分類した。

「区分に該当しない」「分類できない」に該当する項目は表示していない。

引火性エアゾール：	区分 1
急性毒性（吸入：ミスト）：	区分 3
皮膚腐食性／刺激性：	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	区分 2
呼吸器感作性：	区分 1
皮膚感作性：	区分 1
発がん性：	区分 2
生殖毒性：	区分 2
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：	区分 2（中枢神経系） 区分 3（麻酔作用） 区分 1（呼吸器）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：	区分 1（中枢神経系、呼吸器） 区分 2（肝臓、甲状腺）

GHS ラベル要素

シンボル



注意喚起略語

危険

危険有害性情報

H222 極めて引火性の高いエアゾール
H229 高压容器：熱すると破裂のおそれ
H315 皮膚刺激
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H319 強い眼刺激
H331 吸入すると有毒
H334 吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ
H336 眠気又はめまいのおそれ
H351 発がんのおそれの疑い
H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H370 呼吸器の障害
H371 中枢神経系の障害のおそれ
H372 長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系、呼吸器の障害
H373 長期にわたる又は反復ばく露による肝臓、甲状腺の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。

- P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 P210 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 P211 裸火またはほかの着火源に噴霧しないこと。
 P251 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
 P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
 P261 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸引を避けること。
 P264 取り扱い後は手、顔等をよく洗うこと。
 P271 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 P284 (換気が不十分な場合) 呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】

- P302+P352 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと
 P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 P308+P313 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
 P311 医師に連絡すること。
 P312 気分が悪い時は医師に連絡すること。
 P314 気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。
 P342+P311 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
 P321 特別な処置が必要である。(第4項を参照)
 P332+P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
 P333+P313 皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
 P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
 P342+P311 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること
 P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 P377 漏洩ガス火災の場合：漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。
 P381 漏えいした場合、着火源を除去すること。

【保管】

- P403 換気の良い場所で保管すること。
 P403+P233 換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。
 P405 施錠して保管すること。
 P410+P403 日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。
 P410+P412 日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。

【廃棄】

- P501 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物：混合物

化学名：ポリウレタンフォーム

成分名	CAS No.	含有量 (重量%)
Diphenylmethane diisocyanate	9016-87-9	25
Polypropylene triol	25791-96-2	20
Diphenylmethane-4, 4-diisocyanate	101-68-8	15
1-Chloro-2-propanol phosphoric acid	13674-84-5	15
Butane	106-97-8	10
Dimethyl ether	115-10-6	10
Propane	74-98-6	5

4. 応急措置**吸入した場合**

- ：ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
 ：吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 ：呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
 ：呼吸停止の時は人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。

皮膚に付着した場合

- ：皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
- ：汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ：製品が熱い場合は、熱を逃がすために直ちに患部を大量の冷水に浸すか、洗い流すこと。
- ：石鹼と大量の水で洗って、物質を直ちに皮膚から取り除くこと。
- ：液化ガスに触れた場合は、当該部位をぬるま湯で溶かすこと。

眼に入った場合

- ：眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ：眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

- ：ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- ：呼吸停止の時は人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具（ポケットマスクなど）を使用する。
- ：誤飲した時は、医師の診察を受けること。医師の指示がない限り、嘔吐させないこと。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

- ：水噴霧または散細水。 粉末消火器。二酸化炭素消火器。泡消火剤。耐アルコール泡消火剤。

使ってはならない消火剤

- ：棒状放水しないこと。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ：避難させる。訓練を受けて適正に保護具を装着したもの以外は清掃作業に関わってはならない。低い場所を立ち入り禁止にする。密閉している場所または換気が不十分な場所を立ち入り禁止にする。流出物の風上にいること。漏れたり流出したりした場所を換気する。場所内は禁煙とする。立ち入る前に、閉空間立ち入り手順に従わなければならない。火災や爆発を回避するため、流出物または放出された蒸気の近くから着火源となるものをすべて除去する。蒸気爆発の危険がある。さらに詳細な情報は、第 10 項を参照。適切な保護具を用いること。追加情報として、第 8 項、ばく露防止及び保護措置を参照。

環境に対する注意事項

- ：土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。第 12 項、環境影響情報を参照。

封じ込め及び浄化の方法・機材

- ：可能なら、流出物を囲い込む。ガスが消散するまで、場所を隔離する。清掃作業では、ノンスパーク型工具を使用する。火災や爆発を回避するため、流出物又は放出された蒸気の近くから着火源となるものをすべて除去する。正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。以下の物質で吸収させる。：粘土。泥。Milsorb。砂。おが屑。パーミキュライト。さらに詳細な情報は第 10 項を参照。追加情報として、第 13 項、廃棄上の注意を参照。汚染物は第 13 項に従い廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

一般的な取扱

- ：熱、火花、炎から遠ざける。取扱い場所及び保管場所は禁煙。裸火及び着火源は禁止とする。眼、皮膚、衣服との接触を避ける。長時間または繰り返しの皮膚接触を避ける。蒸気の吸入を避ける。 取り扱った後は十分に手を洗うこと。 容器はふたを閉めておく。換気を十分に行っているときのみ使用する。子供の手が届かないようにする。蒸気は空気より重く、長い距離を移動して低い場所に蓄積することがある。発火やフラッシュバックが起こることがある。圧力下で保管。容器に穴を開けたり、焼却したりしてはならない。空になったとしても容器は蒸気含有していることがある。空の容器やその近くで、切断、ドリル、研磨、溶接等の作業を行わないこと。十分な換気無しに、密閉している場所に入ってはいけない。第 8 項、ばく露防止及び保護措置を参照。

保管

- ：静電気の蓄積、熱、火花または火炎などの引火源を最小限に抑える。容器は熱に露出されると圧力が上がるため、熱や直射日光を避け、乾燥した場所に保管する。さらに詳細な情報は、第 10 項を参照。密閉容器内で保管する。
- これ以上の温度で保管しない：50℃

8. ばく露防止及び保護措置

保護具

- 呼吸器の保護；

- ・ 許容濃度を超えないように管理しなければならない。
- ・ 許容濃度を超える恐れがある場合は、認可された防塵機能付有機ガス用空気清浄呼吸器を使用する。
- ・ 空気中の濃度が空気清浄呼吸器の有効濃度限界を上回る恐れがある場合は、陽圧空気供給呼吸器(エアライン式または自給式)を使用する。
- ・ 緊急対応時または空気中の濃度が不明の時は、認可された陽圧自給式呼吸器か、補助空気ボンベ付陽圧エアラインを使用する。

眼・顔面の保護；

- ・ 安全メガネ(サイドシールド付き)を着用する

皮膚の保護；

- ・ この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。
- ・ 作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

手の保護；

- ・ この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。
- ・ 望ましい手袋の素材の例：ブチルゴム、ポリエチレン、塩素化ポリエチレン、エチルビニルアルコールラミネート (EVAL)
- ・ 許容できる手袋の素材の例：ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたは NBR)。バイトン。ポリ塩化ビニル(PVC またはビニル)

経口；

- ・ 衛生状態を良好に保つ。
- ・ 作業場所での飲食や、食物の保管をしないこと。
- ・ 喫煙や食事の前には手を洗う。

設備対策

換気；

- ・ 換気を十分に行っている時のみ使用する。
- ・ 一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。
- ・ 全体換気や局所排気を行い、空気中濃度をばく露ガイドライン未満に抑制する。
- ・ 排気システムは、蒸気・エアゾール発生源およびその場所で作業する人々から空気が流れさるように気流を設計する。
- ・ この物質の臭いおよび刺激性は、過剰ばく露を警告するには不十分である。
- ・ 換気が不十分な場所では致死濃度になることがある。

9. 物理化学的及び化学的性質

状	態	高压容器内：濃い色の液体	外部噴射後：薄いアイボリー色のフォーム
色		アイボリー	
臭	気	特異臭	
融	点	データなし	
沸	点	データなし	
可燃	性	可燃性/引火性の高いガス	
爆発下限及び上限		下限：1.5vol%	上限：11vol%
引火	点	<0℃ (計算値)	
自然発火	点	>350℃	
分解	温度	データなし	
pH		データなし	
動粘性	率	データなし	
溶解	度	データなし	
n-オクタノール/水分配係数		データなし	
蒸気	圧	>500kPa (加压容器内の蒸気圧)	
相對密度		約 1.3g/cm ³	
相對ガス密度		データなし	
粒子特性		データなし	

10. 安定性及び反応性

反応性

：一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。

化学的安定性

：推奨される保管条件下で安定している。(第7項、保管を参照) 高温時に不安定。

危険有害反応の可能性

：起こることもある。高温にさらされると製品は分解し、ガスが発生する。これにより密閉容器内の圧力が上昇し破裂が起こる可能性がある。

避けるべき条件

：これ以上の温度は避ける： 50℃

高温では、容器が裂けたり破裂したりすることがある。高温にさらされると製品は分解する。

混触危険物質

：以下との接触は避ける：酸類。アルコール類。アミン類。アンモニア。塩基類。金属化合物。強酸化剤類。TDI及びMDIのようなジイソシアネート基をもつ製品の多くの物質と反応し、熱を放出する。反応速度は温度上昇及び接触の増加により加速する。こうした反応は激しい物になる可能性がある。攪拌やほかの物質が溶剤の働きをする場合に接触する機会が増加する。TDIやMDIの様なジイソシアネートを含有する製品は、水に不溶で、下に沈むが、境界面でゆっくりと反応する・反応により、二酸化炭素ガス及び固体ポリウレタ層を生成する。水と反応して二酸化炭素及び熱が発生する。

危険有害な分解生成物

：分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。分解時に有毒ガスが放出される。

11. 有害性情報急性毒性（経口）

- ・ 区分 4：CAS 番号:13674-84-5(毒性値=632mg/kg 含有率=15%)
- ・ 区分に該当しない：CAS 番号:9016-87-9(毒性値=10000mg/kg 含有率=25%)，CAS 番号:101-68-8(毒性値=31600mg/kg 含有率=15%)
- ・ 区分に該当しない（分類対象外）：CAS 番号:74-98-6(含有率=5%)，CAS 番号:106-97-8(含有率=10%)
- ・ 分類できない：CAS 番号:115-10-6(含有率=10%)，CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)

$ATE_{mix} = (100 - 30) / ((25\% / 10000\text{mg/kg}) + (15\% / 31600\text{mg/kg}) + (15\% / 632\text{mg/kg}))$ 計算結果が 2620.8530806mg/kg のため、区分 5 に該当。

対象国危険有害性区分補正処理により区分 5 から区分に該当しないに変更。

毒性が未知の成分を 30%含有。毒性未知成分が 0.1%以上なので、区分に該当しないから分類できないに変更。

急性毒性（経皮）

- ・ 区分に該当しない：CAS 番号:9016-87-9(毒性値=9400mg/kg 含有率=25%)，CAS 番号:13674-84-5(毒性値=12900mg/kg 含有率=15%)
- ・ 区分に該当しない（分類対象外）：CAS 番号:74-98-6(含有率=5%)，CAS 番号:106-97-8(含有率=10%)
- ・ 分類できない：CAS 番号:101-68-8(含有率=15%)，CAS 番号:115-10-6(含有率=10%)，CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)

$ATE_{mix} = (100 - 45) / ((25\% / 9400\text{mg/kg}) + (15\% / 12900\text{mg/kg}))$ 計算結果が 14388.9967638mg/kg のため、区分に該当しないに該当。

毒性が未知の成分を 45%含有。毒性未知成分が 0.1%以上なので、区分に該当しないから分類できないに変更。

急性毒性（吸入：気体）

GHS 定義による気体ではない。

急性毒性（吸入：蒸気）

既知の成分がすべて区分に該当しない（分類対象外）のため、区分に該当しない（分類対象外）に該当。

毒性が未知の成分を 60%含有。毒性未知成分が 0.1%以上なので、区分に該当しない（分類対象外）から分類できないに変更。

急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）

- ・ 区分 2：CAS 番号:9016-87-9(毒性値=0.49mg/l 含有率=25%)，CAS 番号:101-68-8(毒性値=0.369mg/l 含有率=15%)
- ・ 区分に該当しない：CAS 番号:13674-84-5(毒性値=7mg/l 含有率=15%)
- ・ 区分に該当しない（分類対象外）：CAS 番号:74-98-6(含有率=5%)，CAS 番号:106-97-8(含有率=10%)，CAS 番号:115-10-6(含有率=10%)
- ・ 分類できない：CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)

$ATE_{mix} = (100 - 20) / ((25\% / 0.49\text{mg/l}) + (15\% / 0.369\text{mg/l}) + (15\% / 7\text{mg/l}))$ 計算結果が 0.8527542mg/l のため、区分 3 に該当。

危険有害性情報：H331 吸入すると有毒。

皮膚腐食性／刺激性

- ・ 区分 2：CAS 番号:101-68-8(含有率=15%)
- ・ 区分に該当しない：CAS 番号:13674-84-5(含有率=15%)，CAS 番号:74-98-6(含有率=5%)，CAS 番号:106-97-8(含有率=10%)
- ・ 分類できない：CAS 番号:9016-87-9(含有率=25%)，CAS 番号:115-10-6(含有率=10%)，CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)

加成方式が適用できる成分からの判定:

(区分 1+1A+1B+1C) × 10 + 区分 2 の成分合計が 15%であり、濃度限界(10%)以上のため、区分 2 に該当。

危険有害性情報: H315 皮膚刺激

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

- ・ 区分 2: CAS 番号:9016-87-9(含有率=25%)
- ・ 区分 2B: CAS 番号:101-68-8(含有率=15%)
- ・ 区分に該当しない: CAS 番号:13674-84-5(含有率=15%), CAS 番号:106-97-8(含有率=10%)
- ・ 分類できない: CAS 番号:74-98-6(含有率=5%), CAS 番号:115-10-6(含有率=10%), CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)

加成方式が適用できる成分からの判定:

10 × (眼区分 1 + 皮膚区分 1) + 眼区分 2A + 眼区分 2B + 眼区分 2 の成分合計が 40%であり、濃度限界(10%)以上のため、区分 2 に該当。

危険有害性情報: H319 強い眼刺激

呼吸器感作性

- ・ 分類できない: CAS 番号:13674-84-5(含有率=15%), CAS 番号:74-98-6(含有率=5%), CAS 番号:106-97-8(含有率=10%), CAS 番号:115-10-6(含有率=10%), CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)
- ・ 区分 1: CAS 番号:9016-87-9(含有率=25%), CAS 番号:101-68-8(含有率=15%)

CAS 番号:9016-87-9 が 25% ≥ 0.2%のため、区分 1 に該当。

危険有害性情報: H334 吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ

皮膚感作性

- ・ 分類できない: CAS 番号:13674-84-5(含有率=15%), CAS 番号:74-98-6(含有率=5%), CAS 番号:106-97-8(含有率=10%), CAS 番号:115-10-6(含有率=10%), CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)
- ・ 区分 1: CAS 番号:9016-87-9(含有率=25%), CAS 番号:101-68-8(含有率=15%)

CAS 番号:9016-87-9 が 25% ≥ 1%のため、区分 1 に該当。

危険有害性情報: H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

生殖細胞変異原性

データ不足のため分類できない。

発がん性

- ・ 区分 2: CAS 番号:9016-87-9(含有率=25%)
- ・ 分類できない: CAS 番号:101-68-8(含有率=15%), CAS 番号:13674-84-5(含有率=15%), CAS 番号:74-98-6(含有率=5%), CAS 番号:106-97-8(含有率=10%), CAS 番号:115-10-6(含有率=10%), CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)

CAS 番号:9016-87-9 が 25% ≥ 1%のため、区分 2 に該当。

危険有害性情報: H351 発がんのおそれの疑い

生殖毒性

- ・ 区分 2: CAS 番号:13674-84-5(含有率=15%)
- ・ 分類できない: CAS 番号:9016-87-9(含有率=25%), CAS 番号:101-68-8(含有率=15%), CAS 番号:74-98-6(含有率=5%), CAS 番号:106-97-8(含有率=10%), CAS 番号:115-10-6(含有率=10%), CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)

CAS 番号:13674-84-5 が 15% ≥ 3%のため、区分 2 に該当。

危険有害性情報: H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

生殖毒性・授乳影響

データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

- ・ 区分 2: CAS 番号:13674-84-5(含有率=15% 臓器=中枢神経系)
- ・ 区分 3: CAS 番号:13674-84-5(含有率=15% 臓器=麻酔作用), CAS 番号:74-98-6(含有率=5% 臓器=麻酔作用), CAS 番号:106-97-8(含有率=10% 臓器=麻酔作用), CAS 番号:115-10-6(含有率=10% 臓器=麻酔作用)
- ・ 分類できない: CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)
- ・ 区分 1: CAS 番号:9016-87-9(含有率=25% 臓器=呼吸器), CAS 番号:101-68-8(含有率=15% 臓器=呼吸器)

CAS 番号:9016-87-9 が 25% ≥ 10%のため、区分 1(呼吸器)に該当。

CAS 番号:13674-84-5 が 15% ≥ 10%のため、区分 2(中枢神経系)に該当。

区分 3(麻酔作用)の成分合計が 40%であり、濃度限界(20%)以上のため、区分 3(麻酔作用)に該当する。

危険有害性情報: H370 中枢神経系、麻酔作用、呼吸器の障害

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

- ・ 区分 2: CAS 番号:13674-84-5(含有率=15% 臓器=肝臓), CAS 番号:13674-84-5(含有率=15% 臓器=甲状腺)
- ・ 分類できない: CAS 番号:74-98-6(含有率=5%), CAS 番号:115-10-6(含有率=10%), CAS 番号:25791-96-2(含有率=20%)
- ・ 区分 1: CAS 番号:9016-87-9(含有率=25% 臓器=呼吸器), CAS 番号:101-68-8(含有率=15% 臓器=呼吸器), CAS 番号:106-97-8(含有率=10% 臓器=中枢神経系)

CAS 番号:9016-87-9 が 25% $\geq$ 10%のため、区分 1(呼吸器)に該当。

CAS 番号:13674-84-5 が 15% $\geq$ 10%のため、区分 2(肝臓)に該当。

CAS 番号:13674-84-5 が 15% $\geq$ 10%のため、区分 2(甲状腺)に該当。

CAS 番号:106-97-8 が 10% $\geq$ 10%のため、区分 1(中枢神経系)に該当。

危険有害性情報:H373 長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系、呼吸器、肝臓、甲状腺の障害のおそれ
誤えん有害性

GHS 定義による固体、液体ではない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）

方式 1=分類できない、方式 2=区分に該当しない、方式 3=区分に該当しないより区分に該当しないに該当。

毒性が未知の成分を 75%含有。毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

水生環境有害性 長期（慢性）

方式 1=分類できない、方式 2=区分に該当しない、方式 3=区分に該当しないより区分に該当しないに該当。

毒性が未知の成分を 75%含有。毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

生態毒性

データ不足のため分類できない。

残留性

データ不足のため分類できない。

分解性

データ不足のため分類できない。

生体蓄積性

データ不足のため分類できない。

土壤中の移動性

データ不足のため分類できない。

オゾン層への有害性

データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

- ・ 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び地方条例に定められた方法に従って、焼却等の処理を行う
- ・ 委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する
- ・ 廃容器の内容物を十分除去した後に、法規に従い廃棄する

14. 輸送上の注意

陸 上 輸 送 消防法、労働安全衛生法、他法令の輸送について定めるところに従う。

海 上 輸 送 船舶安全法に定めるところに従う。

航 空 輸 送 航空法に定めるところに従う。

国 連 番 号 1950

ク ラ ス 2.1（副次危険性なし）

容 器 等 級 なし

15. 適用法令

労働安全衛生法

- ・ (CAS RN : 106-97-8) ; ラベル表示・SDS 交付義務対象物質（別表第 9 の 482）【ブタン】
- ・ (CAS RN : 101-68-8) ; ラベル表示・SDS 交付義務対象物質（別表第 9 の 599）【メチレンビス（4，1-フェニレン）＝ジイソシアネート（別名MDI）】

化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）

- ・ (CAS RN : 101-68-8) ; 第一種 政令番号（1-498）管理番号（448）【メチレンビス（4，1-フェニレン）＝ジイソシアネート】
- ・ (CAS RN : 9016-87-9) ; 第一種 政令番号（1-052）管理番号（585）【アルファー（イソシアナトベンジル）-オメガ（イソシアナトフェニル）ポリ [(イソシアナトフェニレン) メチレン]】

毒物及び劇物取締法

該当しない。

その他の国内法令

- ・ (CAS RN : 74-98-6) ; 大防法・揮発性有機化合物（VOC）（法第 2 条第 4 項）【大気中に排出され、又は飛散した時に気体である有機化合物（浮遊粒子状物質及びオキシダントの生成の原因とならない物質として政令で定める物質を除く。）】

- ・ (CAS RN : 106-97-8) ; 大防法・揮発性有機化合物 (VOC) (法第 2 条第 4 項) 【大気中に排出され、又は飛散した時に気体である有機化合物 (浮遊粒子状物質及びオキシダントの生成の原因とならない物質として政令で定める物質を除く。)】
- ・ (CAS RN : 101-68-8) ; 大防法・有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質 (中環審第 9 次答申 (別表 1) の 240) 【メチレンビス (4-フェニルイソシアネート) (別名 : メチレンビス (4, 1-フェニレン) =ジイソシアネート)】

16. その他の情報

- ・ 室内空気質汚染対策のためのノンホルムアルデヒド自主管理規定 登録番号 JAIA—010818 F☆☆☆☆
- ・ 室内空気質汚染対策のための VOC 自主管理規定 登録番号 JAIA—504782 4VOC 基準適合
- ・ 主な引用文献
NITE GHS 分類結果一覧

注意

危険有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには十分注意して下さい。

以上